



市民参加の小諸市政を！

小泉としひろ後援会長  
土屋佳生

小泉俊博市政 2 期目がスタートして早くも半年以上が経過しました。

令和 2 年 1 月末からのコロナ禍での市長選は、集会が出来ない、みんなで顔を合わせることもはばかれるなど異常事態でした。選挙戦も市政運営も人と人との関りが中心ですから、根幹を奪われた状態で、市民の皆様が失礼やご迷惑をおかけしております。

民主主義の最も大切な一つに、選挙という制度があります。先日のアメリカ大統領選挙での醜態は民主主義の根底に傷付けられた感じがしましたが、小諸市長選が無投票で終わったことは、それも市民の皆様の一つの選択であり民主主義は守られたと思います。

しかし、小諸市のより良い市政の発展には、政策論争で市民の皆さんが市政に関心を持ち参加することが大切なことだという観点から見ると、やはり選挙になることが望ましかったと思います。ですが正直なところ、新型コロナウイルス感染症拡大防止と選挙戦の両立は大変難しいと思いましたが無投票となったときには内心でホッとしました。

さて、小泉市政が 2 期目の市政運営の中核に据えているのは、心身の健康はもちろん福祉、教育、環境、産業、行政などあらゆる分野において「健康」「健全」を目指した「健幸都市こもろ(小諸版ウエルネス・シティ)」を実現することです。またそれに向かって着実な取り組みをしていくように後援会としても支えていく決意しております。そのためにも市民の皆様との対話を大切にしたいと小泉市長は申しておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大が進んでおり、早速にはなかなか難しいです。でも工夫をして皆様にご議論をいただき、その理念の実現に向かって邁進できますようご協力のほどお願い申し上げます。



異例でしたが、コロナ感染防止対策のため、出陣式は後援会幹部のみで開催しました。



組織づくりと  
「市長と語る会」  
の実現に向けて

選挙対策本部長(後援会副会長)  
清水清利

お陰様で小泉市長は無投票により再選を果たしましたが、これまでの取組みを総括し、今後を方向づけることは大変重要です。

昨年6月の後援会総会において、市長選の体制と今後の活動方針を承認いただきました。皆様からご協力をいただきながら、一丸となって選挙戦を迎える予定でしたが、台風19号やコロナの影響もあり、なかなか思うような活動ができませんでした。

まず小泉市長を2期目に擁立する立場として、選挙対策体制を整えたのは、昨年秋でした。また地域の役員体制については、地域の活動等に取り組み走りながらとなり、「戦い無くして地盤固まらず」の意志をもって、支援者の掘り起こし活動に奔走していただきました。十分とはいえないまでも、これら臨戦態勢を整えつつ、緊張感を市内に広げていったことは、対立を模索する人々に対して少なからず影響を及ぼしたものと思います。

今後については、まずは役員の結束、情勢・情報の共有、市政の把握を目的として定期的に本部役員会を開催していきます。地域のご要望やご意見を本部事務局にお寄せください。また、市内の9カ所(旧村地区と街部3)単位で強固な後援会組織と役員体制を構築していきたいと考えています。

次に、市民の立場からすると、選挙が無かったことやコロナ禍で活動が制限されたため、政策を聞き、考え、選択(選挙)する機会が少なかったことが挙げられます。

今後は各地区単位で「市長と語る会(仮称)」や各種会合などを通じて、市民と語らう場を増やします。市長が政策を語り、意見を交わし、協力を仰ぐことは大変重要です。ぜひ会合などに積極的にご参加ください。

これらの活動を通じて3期目の体制づくりに取り組んでまいりますので、後援会の皆様には変わらぬ、ご支援、ご協力をお願いいたします。



4月5日午後5時、他に立候補者が無かったため、無投票で再選が決まり、多くのマスコミが取材に訪れました。

小泉としひろ後援会報

VOL.7 <2020 年秋・冬号>

# 小諸ぷらいど通信

編集・発行 小泉としひろ後援会事務所 〒384-0808 小諸市御影新田 2529-1 TEL0267-23-8788



コロナ禍を  
いかに生き抜くか

小諸市長  
小泉俊博

健幸都市こもろ(小諸版ウエルネス・シティ)を目指して

4月に無投票再選をさせていただき、2期目も半年が過ぎました。皆様には小諸市政に対して、ご支援ご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。コロナ禍にあっても、充実した日々を送っております。

去る2月に開催した後援会の総決起大会において、2期目の公約となる政策集「こもろ未来プロジェクト2020」を発表しました。その中で小諸市が目指すべき姿を「健幸都市こもろ(小諸版ウエルネス・シティ)」とし、その実現に向け取り組んでいます(次頁にその内容を解説していますのでご参考にしてください)。

今後はコロナ感染の状況を見ながら、各地区でミニ集会などを行い、その考え方や政策について詳しくお話する予定ですのでよろしくお願い致します。

新型コロナウイルスがもたらした大きな変化

今年のはじめには誰もが想像できなかった新型コロナウイルス感染症が、世界中で蔓延し、未だに終息の目途がたっていません。「新しい生活様式」に代表されるように私たちの日常生活や行動は制限され、僅か1年足らずの間に人々の意識と社会経済の仕組みに大きな変容をもたらしました。

特に12年前のリーマンショックをはるかに超える社会経済に及ぼす影響が既に出ており、今後は企業の倒産や失業者の増大が懸念されます。このことは市の財政にも大きな影響を及ぼすことは確実であり、財政運営も厳しくなることが予想されます。このため今まで以上に行政改革やデジタル化に取り組んでいかねばなりません。

また、都会の多くの企業においては、在宅勤務などにより出社しなくても仕事ができることがわかり、これからは「成果主義」による「働き方」が変わっていきます。オフィスを廃止、縮小、移転する動きが出てきています。

さらに「どこにいても仕事ができる、テレワークの普及は人々に意識の変化をもたらし、若い世代を中心に地方への移住を加速させています。市が開催するオンライン移住相談会の予約は常に満杯の状態です。昨年比3倍以上の人気ぶりです。オンライン相談会にもいくつか立ち会いましたが、特徴的なのは相談者たちがいずれも「いかに豊かな自分らしい人生を生きるか」を重視していることで、ウエルネスの考え方が時代の要請であることを確信しました。



遠方での会議は、オンラインが増加

時代の変化に対応した市政運営

上記はコロナ禍がもたらしたほんの一部にすぎませんが、時代は確実に大きな変革、混乱期に入りました。小諸市がこれからも持続可能なまちであり続けるために、正に生き残りをかけた時代に突入したのです。

かつて進化論で有名な自然学者のダーウィンが「強い者、賢い者が生き残るのではない。変化できる者が生き残るのだ」と述べました。

私は、小諸市が持続可能なまちであり続けるためには、「健幸都市こもろ(小諸版ウエルネス・シティ)＝市民が健康で生きがいを持ち、安心安全で豊かな人生を営めるまち」を実現していくことが必要不可欠だと考えます。

これまで以上に市民の皆様との対話を心がけ、全力で取り組んでまいります。



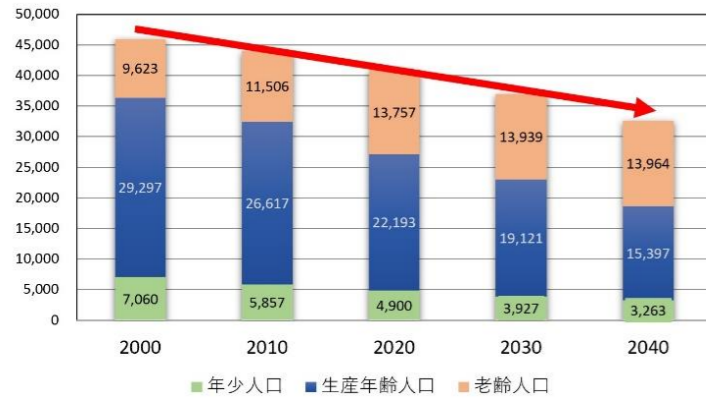
女性ネットの皆さんと恒例のトークサロンを開催

どうか皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

# 【特集】健康都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）とは何か？

## 選挙公約に掲げた「これからの小諸市の目指すべき姿」

小諸市の人口推移（2020年以降は予測）



※国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口より

小諸市の人口は、20年前に人口のピーク(46,158人)となり、今年初めには41,950人(予測では40,850人)でした。このままいけば20年後には32,624人となり、現在より約1万人が減少すると予測されています。

小諸市の今後の人口推計（予測）

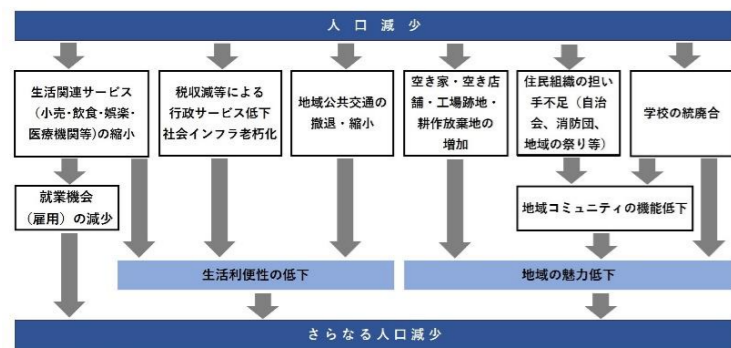
年	総人口	年少人口	生産年齢人口	高齢人口
2000	46,158	7,060	29,297	9,623
2010	43,997	5,857	26,617	11,506
2020	40,850	4,900	22,193	13,757
2030	36,987	3,927	19,121	13,939
2040	32,624	3,263	15,397	13,964

※国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口より

20年後には1万人減！ 生産年齢人口が人口の半以下に！

人口減少問題は、社会に様々な弊害をもたらすため、全国の基礎自治体に大きな影を落としています。

人口減少の悪循環のイメージ図



※国土交通省資料より

しかしながら、人口増加に転じている(人々から選ばれている)自治体も存在しています。

日本の人口が減少していく中であって、小諸市が今後も持続可能な自治体であり続けるためには、人口減少を抑制しつつ、市内外の人々から「選ばれるまち」であることが必要です。

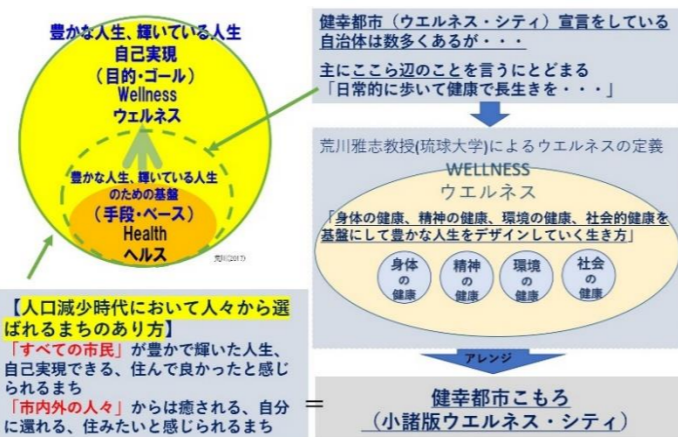
それではどうしたら人々から「選ばれるまち」になるのでしょうか。

私は2期目の公約(政策集「こもろ未来プロジェクト2020」)で、これからのまちのめざす姿・ビジョンとして「健幸都市こもろ(小諸版ウエルネス・シティ)」を掲げました。

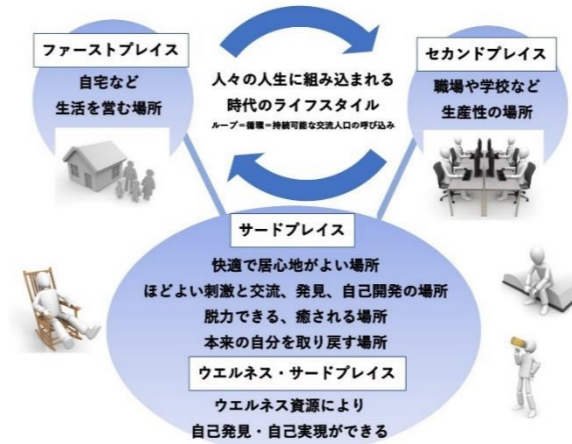
琉球大学の荒川雅志教授によれば、「ウエルネス」は、健康を身体の側面だけ



なく、より広く総合的に捉えた概念で、「身体の健康、精神の健康、環境の健康、社会的健康を基盤にして、豊かな人生をデザインしていく、自己実現」と定義しています。そうすると、この「ウエルネス」は、健康・福祉はもちろんのこと、子育て・教育、環境、産業・交流、生活基盤、行政経営など、あらゆる分野からのアプローチが可能な考え方とも言えます。



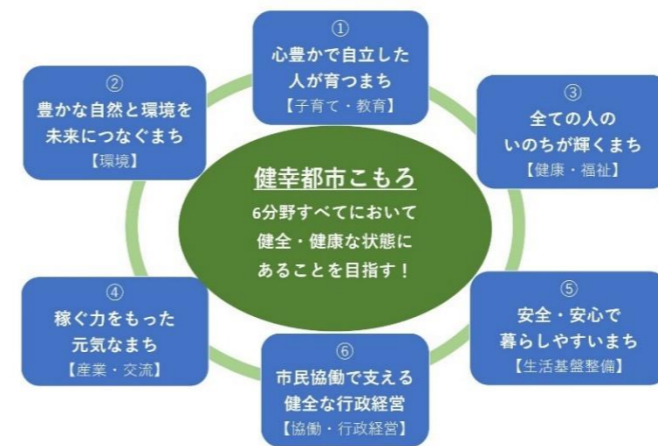
また、慌ただしい高度情報社会、ストレス社会に生きる現代人には、日常をリセットする時間、本来の自分を取り戻す場所が不可欠ですが、ウエルネスの持つ意味の中には、家庭や職場のほかに「サードプレイス(第3の場所)」=「快適でゆっくりと脱力できる、癒される場所。自分に還れる場所、何度も帰ってくる場所。ほどよい刺激があり、自己開発できる場所」という概念があります。小諸市にはサードプレイスたる地域資源(ウエルネス資源=自然、歴史、文化、人など)に溢れています。



そこで、「健幸都市こもろ(小諸版ウエルネス・シティ)」を小諸市の目指すべき姿として掲げ、「健康・福祉はもちろんのこと、子育て・教育、環境、産業・交流、生活基盤、行政経営などのあらゆる分野において「健康」「健全」であることで、市民が健康で生きがいを持ち、安心安全で豊かな人生を営めるまち。小諸市を訪れる国内外の人々が「自分に還る、何度でも帰りたい、住んでみたいまち」と再定義しました。

このことは小諸市の総合計画の根幹となる第5次基本構想「住みたい 行きたい 帰ってきたい まち 小諸」とも整合性があります。

そして現在策定中である第11次基本計画の6つの政策分野(①子育て・教育、②環境、③健康・福祉、④産業・交流、⑤生活基盤整備、⑥協働・行政経営)において、私の政策集「こもろ未来プロジェクト2020」を反映させる形で、「健幸都市こもろ(小諸版ウエルネス・シティ)」の実現に向け各種施策・事業を行っていきます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# 【新型コロナ感染症への対応:主なもの】

(令和2年11月20日現在)

## ●対策本部の活動

対策本部会議(市単独)26回/同 会議(法定)6回  
総合連絡会議 4回/事務担当者会議、関係機関との会議等多数 市長メッセージ7回発信  
人権ポスターの制作など

## ●生活支援等対策(主な小諸市単独事業、以下同じ)

- ・こもろ子育て応援チケット給付事業
  - 一人3,000円の商品券を支給 5,120人 15,360千円
- ・ひとり親の子育て世帯臨時特別給付金
  - 一人10,000円支給 598人 5,890千円
- ・出産子育て応援金交付
  - R2.4.28~R3.3.31に出産した子の保護者に10万円
- ・小諸出身学生支援事業
  - 帰省自粛をしている学生に小諸の特産物を送付
- ・インフルエンザ予防接種費用の一部補助
  - 6か月~18歳までの子どものインフルエンザ予防接種費用1回1,000円補助(低年齢者は2回まで可)

## ●緊急経済対策

- ・制度融資 感染症対策資金[事業継続]
  - 融資限度3,000万円 利子補給期間3年間
- ・旅館業事業給付金[事業継続:終了]
  - 1施設10万円~100万円 28件 14,054千円
- ・テイクアウト・デリバリー飲食店支援[消費回復・事業継続:終了]
- ・こもろ応援チケット第1弾[消費回復]
  - 20%のプレミアム加算付商品券 7/4~12/31
  - 販売額2億5千万円(額面3億円)
- ・飲食店等感染予防対策交付金[事業継続]
  - 1店舗50,000円 93件 4,471千円
- ・観光産業需要喚起支援金[事業継続]
  - 法人50万円 個人30万円 8件 3,800千円
- ・キャッシュレス決済ポイント還元事業[消費回復]
  - PayPay加盟店でキャッシュレス決済時に20%のポイント還元 加盟店約400店 11/1~11/30
- ・事業応援給付金[事業継続]
  - 本年1月以降の売り上げが前年比30%以上50%未満の事業者を応援 ①事業者10万円
- ・こもろ応援チケット第2弾[消費回復]
  - 40%のプレミアム加算付商品券 11/21~2/21
  - 販売額2億円(額面2億8千万円)
- ・サテライトオフィス等誘導支援金[アフターコロナ対応]
  - 改修費用補助1/2 限度額100万円
- ・生産設備導入事業[事業継続]
  - 1代700万円以上の生産設備購入費を助成

## ●教育関連対策

- ・小中学校感染対策・学習保障等支援事業
- ・ICT教育推進事業
- ・小中学校施設維持管理事業
- ・文化施設等コロナ対策事業

## ●防災関係対策

- ・感染症予防対策用備蓄倉庫整備事業
- ・避難所等感染予防対策事業